# 重度障がい児支援 花園

R7.10.1改訂

## 理 念

◆ こども達の未来の幸せに向け、
愛情を惜しむことなく注ぎます。

◆ 子･親･地域の笑顔を繋ぎます。

## 大切にしている視点

**愛情**
抱っこで活動に参加しよう。
たくさんの人の声や優しさを伝えよう。

**心の芽**
「ワクワクと興味のむく方へ。」
「できることが喜びに変わるように。」
～個性を尊重し、楽しく、枠にとらわれない療育を心掛けます～

**その次へ**
目標にむかって得た成果を、次に発展させよう。
関わる機関みんなで連携し、成長発達をサポートします。

営業時間　9：00～16：00

送　迎　旭川市内、鷹栖町（近郊の方はご相談下さい）

◆管理者
◆児童発達支援管理責任者（児発管）
◆保育士
◆リハビリ職
◆看護師

災害対策委員会

虐待/身体拘束
防止委員会

感染/食中毒
予防委員会

苦情対応者

係り活動：SS活動（職場環境改善）

※指定福祉避難所
（避難対象者を当事業所の契約者様と家族とした旭川市と協定を結んだ福祉避難所です。）

## 行 事

こども達：お誕生会、季節の行事（スイカ割り、ながしそうめん、餅つき等）

保護者様：親子レクリエーション、茶話会（懇談会）

地域の方：こども達と避難訓練、体操教室（夏季）、文化教室（冬季）

※行事内容は変動することがあります。

## 職員 の 質の向上

研修：虐待防止、身体拘束防止、防犯、送迎車内対応、医療的ケアと疾病について
法令遵守、リハビリ（ポジショニング等）、災害対策、蘇生訓練、BCP訓練
手指消毒等感染予防、口腔ケア　他

## 所属する団体

日本小児科学会・日本重症心身障害学会・日本小児在宅医学会・医療的ケア児等コーディネーター支援協会 ・北海道社会福祉協議会・日本スヌーズレン協会・北海道重症心身障害児（者）を守る会・青年海外協力協会・旭川地域児童デイサービス等連絡協議会

# 花色のこども

## 重症心身障がい児・医療的ケア児

「ぼく達、入院生活がながかったんだ。」

「痛いことをガマンしてきたよ。」
「ともだちと過ごすことが少なかったんだ。」
「医療機器がついていて遊べなかったんだ。」

こどもって、友達とあそび、一緒に取り合って、泣いたり妥協しながら、相手を思いやる事を学びます。関わりの中で喜怒哀楽が表現できるようになり、家族、友達、自分のことも大切にすることを学んでいきます。重症心身障がい児や医療的ケア児は、たくさん[痛い・辛い]体験をして、いつの間にか脳が委縮してしまっていることもあります。でも、色々な快体験や経験を重ねることで脳が育ち、生きやすさや、社会参画につながります。辛いことを、辛いままにしないために、花色は５つの視点でお子さまをサポートします。

「ぼくは、お母さんが決めてくれた事でいいんだ。」

じゃなくって

◆ 令和6年12月改訂

花色の5領域ルール

たのしいこと！
自分からやりたくなること
“人”と関わっていこう
「できた！」をふやそう

**健康・生活**
生活リズムを整えよう
（健康な心と身体で生活を）

**運動・感覚**
自分のからだを知ろう
（機能に沿った生活動作）

**認知・行動**
「お！」って変化に気づこう
（新たな経験をふやそう）

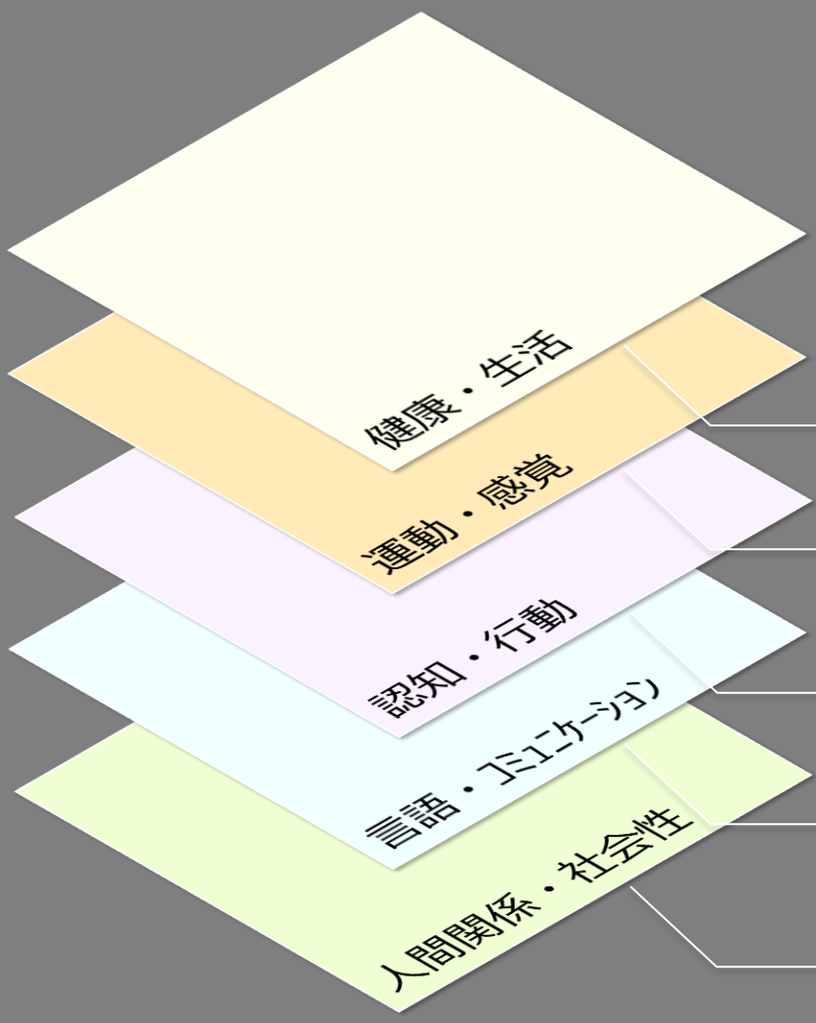
**言語 コミュニケーション**
人と関わり生活するから
伝える方法をさがそう

**社会性 人間関係**
安心してやりとりをしよう
（好奇心・協調性・がんばる力）

「これが好き！ こんな事はイヤ！」
「こんな生活をしたい！」を伝えて
将来、親元から離れた後の自立生活を
生きやすいものに繋げていけるように支援いたします。

HANAILO

# 5領域　支援内容のご紹介



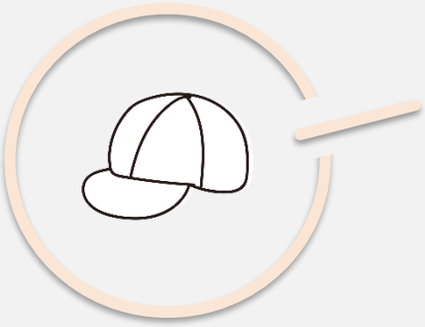

- 健康・生活
- 療育中の運動・感覚
- 認知・行動
- 言語・コミュニケーション
- 人間関係・社会性

居宅訪問型
児童発達支援

保育所等
訪問支援

児童発達支援

放課後等
デイサービス



# 児童発達支援

## 健康・生活

**□生活リズムを整えよう。**
**□活動に最後まで参加できるようにケアや環境調整を行います。**

- ✓ 身体のこわばりを抑えられるように、抱っこや姿勢保持を行います。
- ✓ 活動の流れを説明します。説明には、図や形で示す工夫をします。
- ✓ 休む・あそぶ等での場面に応じた切り替えを身に付けます。

## 運動・感覚

**□全身を大きく動かしたり、一部の機能（手や足の役割）を感じながら、活動性を高めよう。**

- ✓ 五感から得た情報が、どんな気持ちに結びつけられるか言語化します。
- ✓ 感覚過敏が和らぐ事ができるよう時間をかけて携わります。

## 認知・行動

**□脳がグングン育つこの時期を大切に、“興味”と“新たな経験”を活動に織り混ぜ、情報を積み重ねます。**

- ✓ 情報を結びつけ、記憶が整理できるように支援します。
- ✓ 色やカタチ等の【共通点】や【変化】に興味をもとう。
- ✓ 視線をむけ手を伸ばしたくなるように、発信や受け止める工夫をします。

## 言語・コミュニケーション

**□[考え]や、[心の動き]を、言葉の意味を知って受け止めよう。**
**□伝え、関係性を築く楽しさを身に付けよう。**

- ✓ 興味関心に応じて、一人ひとりに合わせた関わりとツール等を探し、コミュニケーション能力の向上と定着を支援します。

## 人間関係・社会性

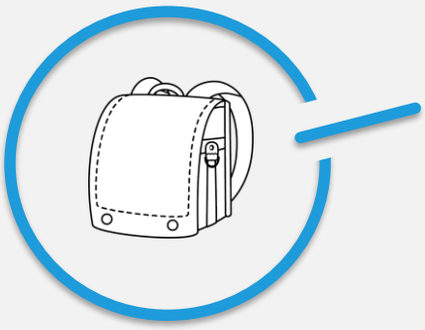
**□愛情を肌で感じられるように、心を込めて携わります。**
**□安心の中でお友達や支援者と仲良くなろう。**

- ✓ 抱きしめ、声をかけ、話を聞き、愛されている存在だと感じよう。
- ✓ その次の好奇心・協調性・がんばる力に結び付ける土台をつくります。

・父母のお話しを聴くことを大切にしています。また、きょうだい児の学校行事等に参加できるようサポートします。

・こども園への訪問や公園等に行き、他児とかかわる機会をつくります。
・事業所の近隣の方々と避難訓練等を行います。

・今までの生活環境から一歩踏み出し、チャレンジし始める時期です。身体状態を主治医を含め、関係機関と連携していきます。



# 放課後等デイサービス

## 健康・生活

□**生活の中に“習慣”を取り入れ、健康維持 (向上) をはかります。**
□ **“暮らし”に必要な行為（一人の活動、排せつ、家事）を知ろう。**

- ✓ 日課・活動には必要に応じ自助具や構造化を取り入れ、持つ機能を発展し、やりとげられるように工夫します。
- ✓ 胃ろう・経口摂取に限らず、食を営む力の育成に努めます。

## 運動・感覚

□**成長と共に、重みで動かしづらくなってきた身体を、重力に負けず、起こし、見渡し、動かせるように支援します。**

- ✓ 光、音、温度、季節等の【変化】を感じ受けよう。
- ✓ 成長に伴う骨折に細心の配慮をしつつ、楽しく身体を動かそう。

## 認知・行動

□**得意や興味を伸ばそう。**
□**目的を持ち、違いが感じられるように環境を設定します。**

- ✓ 体格・機能にあったツールで主体性をひきだします。
- ✓ 意思決定ができるように、考え、理解できる話しかけを工夫します。
  理解の違い（例）：「聞く・聞き分ける・しっかり聞く（諦聴する）」

## 言語・コミュニケーション

□**共に意図を理解し、交流が展開できる方法を探そう。**
□**発声、絵カード等により誰にでも伝えられるようになろう。**

- ✓ 変動しない発信（サイン等）を探索します。（瞼、視線、声、指先等）
- ✓ 機能にあったツール（スイッチ・ライト・楽器等）の探索と習得。

## 人間関係・社会性

□**“様々な年齢のお友達”との関わりを通し、年齢相応の立ち振る舞いを学びます。**

- ✓ 他者と協力して、決まり事を行えるような役割をもちます。
- ✓ 知らない人や、複雑な対人関係等でも、気持ちや行動のコントロールができるように経験の機会を重ねます。

・お子様の状態と、それぞれの家族らしく生活できることを一緒に考えます。
・きょうだい児を含めたお悩みに一緒に対応方法を考えていきます。

・学校・相談員等と、身体状態や成長発達について共有します。
・お子様のサポートを地域で、できるように関係性を強化していきます。

・進学、就労等の次のステージを見据えて、ご家族の意向を汲み、地域資源にも働きかけていきます。

# 居宅訪問型
# 児童発達支援

## 健康・生活

**□お外にまだ出られないお子様の[健康の維持]に気を配ります。**
**□目・手・足等を負担のない範囲で動かすことを重ねます。**

- ✓ 日常の生活動作（歯磨き等）をあそびながら学びぼう。
- ✓ 持つ機能の中で、生活に直結することを経験しよう。
- ✓ 負担なく活動に最後まで参加できるように関わります。

## 運動・感覚

**□活動度にあわせ、姿勢や運動の経験を積みます。**
**□楽しいと思える感覚を持てるようにあそびを提供します。**

- ✓ 大きく動かすこと。細かな動作を行うことをやってみよう。
- ✓ 素材の違いや、四季のながれを感じ取ろう。

## 認知・行動

**□好きなこと、得意なことを一緒に探し、発展させていこう。**
**□あそびや、支援者との触れあいの中で[知る機会]をつくります。**

- ✓ 注意をそらさず活動に参加しよう。
- ✓ 見たり触ったりして、それが"何であるか"が、わかるようになろう。

## 言語・コミュニケーション

**□気持ちを伝える方法を考え、意思表示できるように支援します。**

- ✓ 家庭にある道具を使い、伝える方法を探ります。
- ✓ 挨拶や、物の名前を学びましょう。

## 人間関係・社会性

**□ご家族以外の他者（支援者）にも安心して接することができるように、優しく丁寧に声をかけ、愛情を伝えます。**

- ✓ 名前を呼び、スキンシップをとって、信頼関係を構築します。
- ✓ 社会にはたくさんの人と多くの楽しみがあることを伝えていきます。

・抱いている大変さや、これから先の心配事をお聞かせください。
同様に、きょうだい児の心配事もご相談ください。

・主治医を含めた医療機関や、相談支援員とも連携し、お子さまにとって必要なつながりを深めます。

・身体状態をふまえた移行支援を一緒に考えていきます。必要に応じ、保育所等訪問支援で、新しい生活の場での支援方法をお伝えします。

# 保育所等訪問支援

## 健康・生活

**□集団生活での活動を整理し、工程（動作）を学びます。**

- ✓ 日常の生活動作（歯磨き等）を身に付けよう。
- ✓ 持つ機能の中で、集団生活に直結することを経験しよう。
- ✓ 体力をつけ、集団生活に積極的に参加しよう。

## 運動・感覚

**□感覚を受け入れ、動くことが楽しみになるように支援します。**

- ✓ 声や楽器の音量の大小にかぎらず、状態を受け入れるようになろう。
- ✓ 自分の体力を知って、自ら休憩することを身に付けよう。

## 認知・行動

**□その時の環境 (状況) にあわせた行動ができるよう、導きます。**

- ✓ 周りのお友達は、今どうしているのかな？を観察できるようになろう。
- ✓ 活動の目的や工程に集中しよう。

## 言語・コミュニケーション

**□心の状態、身体の不調等を伝えられるようになろう。**

- ✓ 早口に感じる周囲のおしゃべりも受入れ「私はこう思っているよ。」を伝える方法を身に付けよう。

## 人間関係・社会性

**□協力すること、協力してもらうことで仲間になろう。**

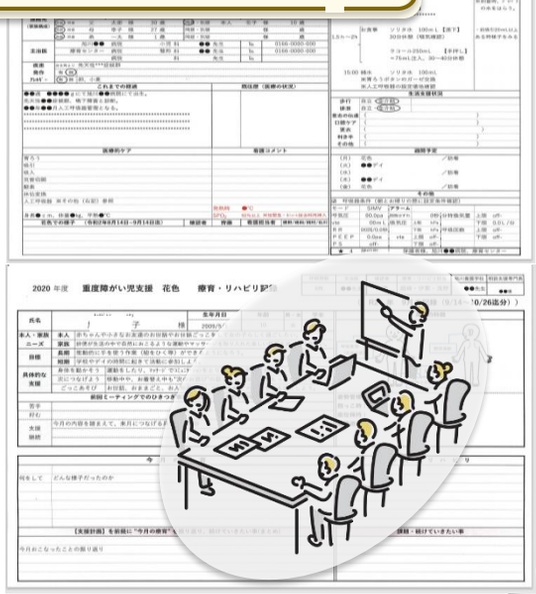
- ✓ 「わたし」という自分を大切に、自分のことを褒め、周囲には「ありがとう」を伝えられるようになろう。

・ご家族の“思い”と、将来像をお聞かせください。その中で、悩んでいる事を一緒に考えていきます。

・すべてのこども達がこの町で暮らし、成長発達していくことを地域全体で考えられるように働きかけます。
・個別支援計画は、保育所やこども園等の先生と一緒にたてます。

・お子様への生活上の支援はもちろん、保育所やこども園等の先生と“暮らしやすさ”を考え、環境や関わりの工夫をします。

# 現在の状態を【情報提供文書】で共有します。



| お母さん | 児発管 | 通所中の支援 | 支援者 |
|---|---|---|---|

**契約時**

「お外で遊ぶ事はあまり無いかな。」

福祉サービスを使うってどういう事かな？
まず、こどもの特性を知って欲しいな。

「まず花色になれましょう。」

安心して頂くためにも、面談を繰り返します。
心配な事や、不安は児発管に相談を。

**指示**

⇩児発管が支援者にピンポイントに指示をだします

**【 2か月以内に、信頼関係を築きましょう。 】**

~具体的には~（信頼関係の評価のために）
「顔を見て、横抱っこで活動に参加して下さい。」
「お昼寝は薄暗い環境で。安眠できるか観察して下さい。」

「1か月半で慣れたね。」
「泣かなくなったけれど、お昼寝時間は短いね。」
「音の過敏があるね。」
「まだ１対１の関わりが大事な時だね。」
「活動の途中で寝ちゃうね」

**ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ**

【現在の花色での状態をご報告】

「お家にこどもがいない時間に、慣れてきました。その時間で買い物に行けます。通所が楽しみになって欲しいな。」

①お母さんに寄り添い傾聴をします。

②児発管は支援者に想像できる将来像を「目標」として伝え、具体的な「支援方法」をあげ指示します。

**指示**

⇩先々を見越しつつ、変化に対し、次に行う支援方法の指示をだします。

**【 4カ月を目標に信頼関係に加えて、楽しみをみつけて】**

~具体的には~
「音がなる前に、手をつなぎ音がでる事を伝えて下さい。」
「より安心できる環境を継続してつくるためにも、
“好きな音楽や素材をみつけて”下さい。」

「来月はお買い物ごっこと、粘土あそびをします。」

【健康・生活】「寝ずに活動に最後まで参加する事を目標にしよう。」
【運動・感覚】「聴覚過敏があるので楽器は小さな音から。」
【認知・行動】「お名前を読んだらご返事できるように導こう。」
【言語・ｺﾐｭﾆ】「メッセージになる小さなサインをみつけよう。」
【関係社会性】「お友達と一緒に活動していることが伝わるように状態を伝えながら触れあって参加しましょう。」

**２か月ごとに【情報提供文書】で 状態を共有します。**

保育士・看護師・リハビリ職員は、
児発管がたてた「どんな人（生活）になりたいか。」の目標にむかい、支援をステップアップしていきます。